

理事

| | 氏名 | 所属 | 抱負 |
|---|-------|------------------------|---|
| 1 | 中塚 聡 | 南信勤労者医療協会 諏訪共立ケアセンター赤砂 | 2018年より8年間、理事として主に研究推進班、OSカフェの担当として活動してきました。2022年にはオンライン開催でしたが、長野県の仲間と共に学術大会を開催できました。理事の中では当時、数少ない臨床家という立場でしたが、この間、所属法人では管理者となり臨床だけでなく職場の管理（経営、人事等）を通して、社会の在り方を考える機会も増え、作業科学の視点の重要性やユニークさも再認識しました。日本の作業科学学会は世界の中でも会員に作業療法士が多いことを強みと捉え、そのフィールドを活かし、作業の知識を生み出す研究や、作業科学により生み出された知見が活かされ、より質の高い作業療法実践がなされ、国民の健康に寄与できることが期待できます。一方で、作業科学という学際的な学問には、作業療法士以外の立場の人が増えることも重要であり、OSカフェ等での自由闊達な議論を通して裾野が広がることを期待しています。どうぞよろしくお願い致します。 |
| 2 | 高島 理沙 | 北海道大学大学院保健科学研究院 | 今回は2期目の立候補となります。1期目では、特に研究推進班での活動を通して、作業科学に関する学びや研究の萌芽・発展に向けた研修会の企画・運営に取り組んできました。Journal of Occupational Science of the International Advisory Boardとしての活動や、海外研究者との共同研究を通して、国内外の作業科学の動向に触れる機会も得ています。今後は、こうした経験を活かしながら、若手研究者や臨床家、初学者を含め、多様な立場の方々が学び、対話し、研究を進展させていく場づくりに貢献したいと考えています。さらに、国際的な知見を国内に還元するとともに、日本の実践や研究成果を海外へ発信し、作業科学のさらなる発展に寄与できればと思います。どうぞよろしくお願いたします。 |
| 3 | 高木 雅之 | 県立広島大学 | 私はこれまで本学会の機関誌編集と国際交流に携わってきました。今後も、本学会がより学際的、国際的な場になるように尽力していきたいと考えています。日本の作業療法士だけでなく、海外の研究者や他分野の研究者が学術大会や学術誌に参加してもらえるようにネットワークを構築していきたいです。また会員向けに海外の情報を発信していきたいです。 |
| 4 | 星野 藍子 | 名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻 | これまで私は、会員として自身が指導する大学院生とともに学術大会で発表を行ってきたほか、OSカフェや研究推進班の一員として、日本作業科学学会の活動にかかわってまいりました。これらの活動を通して、作業科学の魅力を広く伝え、その発展に貢献すること、また自分自身の専門である研究を通して、日本における作業科学の発展に寄与することが、私の役割の一つであると考えようになりました。作業科学には、人々の日々の作業を多面的に捉え、健康、社会生活への参加、そして社会・文化・環境との関係を深く考える豊かさがありません。私自身がこれまで作業科学に感じてきた幅広さ、奥深さ、そして可能性を、多くの方々と共有し、さらに深めていきたいと考えております。具体的には、2027年度学会の運営、国際的連携も視野に入れた研究活動の推進、また教育的側面からの研修・学びの機会づくりなどに携わってまいりたいと考えております。微力ではございますが、これまで本学会が培ってきた系譜を大切にしながら、作業科学の新たな展開に貢献できるよう、誠実に努めてまいります。 |
| 5 | 大下 琢也 | 医療法人健康会 嶋田病院 | 昨期は理事として、学会ニュースの発刊やホームページ・SNSの広報、実践研修を担当させていただきました。引き続き日本作業科学学会に責任のある立場で関わり、作業科学と学会の発展に寄与できるように尽力していきたいと思っております。私自身、臨床家として作業について学び探求する上で、学会を通じたつながりに支えられ助けられました。今度は自分がこの橋渡しに貢献できるように、発信と場づくりを継続していきたいです。 |
| 6 | 山根 伸吾 | 令和健康科学大学 | 5期目の役員立候補となります。1期目では、機関誌編集と広報に関わらせて頂き、2期目、3期目は副会長と広報・ネットワーク部を、4期では会長と、広報・ネットワーク部、教育部の実践研修担当をさせて頂きました。理事の任期が5期までとなっておりますので、理事になれましたら最後の期となります。本学会に貢献できることを考えながら取り組みたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。 |
| 7 | 大谷 将之 | 障がい者支援センター「てらだ」 | これまで基礎入門班、メーリングリスト、ホームページ等を担当させていただきました。作業科学に新しく学ばれ方を増やせるように、研修の企画・運営や効果的な情報発信に力をいれたいと考えております。よろしくお願致します。 |

| | | | |
|----|-------|-----------------------|--|
| 8 | 西方 浩一 | 文京学院大学保健医療技術学部作業療法学科 | 作業科学の学術的発展に貢献したいと思い日本作業科学学会理事に立候補いたします。作業に関する知識の創出、共有、議論が行える学会を目指し、研修会、学術大会をはじめとした学会活動を推進できるよう努力したいと考えます。 私はこれまでの2年間、理事ならびに事務局長として、日本作業科学学会活動に関わらせていただきました。今期はこれまで行なってきた業務の効率化とともに他の理事、委員と協力し事務局業務の遂行並びにOSカフェの企画運営などを行なっていきたいと考えます。 |
| 9 | 清田 直樹 | 東北福祉大学 | 私は、約10年前から日本作業科学学会の学術大会で研究発表等に参加してきました。当時、作業の持つ魅力が磨けば磨くほど輝きを増すことを実感し、それ以来、作業科学へ貢献したいという気持ちが強くなりました。作業科学は作業療法の基礎となる重要な学問です。作業療法の実践が発展するためには、作業に関する疑問を探究し、その人のライフヒストリーや社会・文化的背景を深く理解することが不可欠です。例えば、私はサーフィンや水泳を好みますが、なぜ人は特定の場所に住み、ある作業を選択し、それを継続するのかという問いに強い関心を抱いています。このような日常の作業に関する問いを探究することが、作業療法の発展につながると考えています。また、私は第28回日本作業科学研究学会学術大会の大会長を務め、多くの参加者や会員の皆様のご支援をいただきながら大会運営に携わる機会を得ました。この経験を通して、学会が果たしている学術的・社会的な役割の大きさを改めて実感するとともに、学会のさらなる発展に貢献したいという思いを一層強くしました。私の抱負は、人間を作業的存在として捉え、日常生活における作業の意味、そして健康や安寧との関係を体系的に研究し、その成果を広く発信することで、作業療法の実践をより充実させることです。また、これまで世界で培われてきた作業科学の知見と歴史を尊重しながら、次世代の研究者や作業療法士が活躍できる環境づくりにも貢献したいと考えています。以上の理由と抱負をもとに、理事として日本作業科学学会のさらなる発展に貢献していきたいと思いをもちます。 |
| 10 | 坂上 真理 | 札幌医科大学保健医療学部 | 私はこれまで、本学会の前身組織の時代から副会長や事務局長として組織運営に携わって参りました。現在、本会は研究会から学会へと移行し、新たな役割を担う重要な転換期にあります。創設期から培った経験を活かし、作業科学によって創出される知識が、それを必要とする人々に広く伝わり、活用される仕組みづくりに貢献したいと考えております。学会としてのさらなる発展を支えるべく、理事に立候補いたします。 |
| 11 | 安田 友紀 | 医療法人嘉誠会 ヴァンサンク ポルテ | 1期目は広報、基礎入門研修を担当させていただき、それらの活動を通して作業科学を学びたい方の多さとその想いを知ることができました。そのような方々の声を聞きながら、会員非会員、臨床家・学生等の立場関係なく、作業科学を学びたい・深めたい全ての方々の学びのきっかけづくりに尽力してまいります。そして、誰もが自分の作業を大切に、自分の作業を語り、誰かと語り合えるような社会となるよう作業科学を学ぶ仲間を増やしていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。 |
| 12 | 齊藤 隆一 | 山口県済生会 豊浦病院 | 私は山口県済生会豊浦病院に勤務し、作業療法士として臨床実践に従事しています。また、地域予防事業や作業療法学生の臨床実習教育に携わっています。私が作業科学と出会ったのは、第18回作業科学セミナーの実行委員を務めたことがきっかけでした。その後、大学院に進学し作業科学を学ぶ中で、人と作業を捉える視点が広がり、臨床・教育・研究の実践をより深く考えこれまで私は、がんターミナル期の人や認知症の人の退院支援などの臨床実践に加え、地域予防事業における作業経験に関する研究、臨床実習学生の作業バランスに関する研究などに取り組み、継続して学会発表や研究活動を行ってきました。その中で強く感じているのは、作業科学の知見を現場へ届けることと同時に、現場で生まれる実践知を学術へ還元することの重要性です。理事として活動する機会をいただければ、臨床・教育・研究をつなぐ架け橋となり、若手会員や学生が作業科学に触れ、学び、発信できる機会づくりに取り組みたいと考えています。また、会員同士が交流し、互いの実践や研究から学び合える環境づくりを通して、日本作業科学学会のさらなる発展に貢献したいと考えています。会員の皆様とともに、日本作業科学学会のさらなる発展に向けて尽力してまいります。ご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。 |
| 13 | 伊藤 文香 | 茨城県立医療大学 | 1期目では、作業科学と作業療法をつなぐ実践研修を担当してまいりました。作業科学の発展には実践への橋渡しが不可欠であると実感しております。2期目も引き続き、この橋渡しの推進を通じて作業科学に貢献していきたいと考えております。 |
| 14 | 真田 育依 | 茨城県立医療大学 | 私は、作業療法教育および研究に携わる立場から、作業科学の知見を臨床・教育・地域実践へつなげていくことの重要性を感じてきました。理事として、会員の皆様とともに学び合い、研究と実践を結びつける活動を支えながら、日本における作業科学の発展に微力ながら貢献していきたいと考え、立候補いたしました。どうぞよろしく願いいたします。 |

| | | | |
|----|-------|----------|---|
| 15 | 木口 尚人 | 茨城県立医療大学 | 私の抱負は、作業科学の知見を広く社会に還元し、人々がその人らしい生活と安寧を実現できるよう、作業科学のさらなる発展に貢献することです。AIによる標準化が進む今こそ、作業科学の多角的な視座で個別の文脈を捉えることが、学問としての固有の価値を発揮する機会であると考えます。私はこれまで、医工連携・行政との協働など、多領域にわたる連携活動を積み重ねてきました。こうした経験を基盤に、昨今の複雑化する社会的課題に応える作業科学を、より開かれた学問として他領域へ普及させるとともに、作業科学が社会政策と結びつき発展するための基盤づくりに尽力いたします。 |
|----|-------|----------|---|

15名（8名以上15名以下）

監事

| | 氏名 | 所属 | 抱負 |
|---|-------|----------------------------|---|
| 1 | 土谷 里織 | 医療法人脳神経研究センター 新さっぽろ脳神経外科病院 | これまで日本作業科学学会の一会員として多くの学びの機会をいただき、また今年度は第29回日本作業科学学会学術大会の運営を通して、さらに成長の機会をいただけてまいりました。今後は、これらの経験を学会運営に還元し、本学会の発展に貢献したいと考え、監事に立候補いたしました。監事としては、学会運営が適正かつ円滑に行われるよう公正な立場から役割を果たすとともに、会員の皆様が安心して活動できる学会づくりに努めたいと考えております。学会の健全な運営を支えながら、作業科学の発展と学会のさらなる活性化に寄与できるよう尽力してまいります。 |
| 2 | 西野 歩 | NPO煌めく返り花 | 日本作業科学学会に、少しでも貢献したいと考えています。未来志向で、会員皆さんと共に作業科学を他者と自分の人生のために普及啓発できることを希望しています。そのためにも、わたくしができることの最大限として監事としての活動をしたく立候補しました。 |

(届け出順)